

研究テーマ	[III 自分らしさを表現する造形教育を考える] 表現の多様性に気付かせ、発想力、構想力を高める授業の工夫 ～小学校 2 年 「ねって のぼして 色まぜて できたぞ! ぼくの新商品」の実践を通して～
-------	--

守谷市立黒内小学校 教諭 岡田 征子

1 研究テーマについて

粘土にはすぐれた可塑性があり、立体造形を容易に実現できるため、古くから塑像などの造形に用いられてきた。また食器や人形など身近なものとして多様な表現で生活の中に溶け込んでいる素材である。今回使用する紙粘土は、乾燥すると固まることから、形を保持できる。その代わりに、表現をするときの手のひらから伝わる体温で質感が変わっていくなど、油粘土とは違った扱い方を工夫していく必要がある。児童へは、できた色や形からもイメージを膨らませて、「お店に売っていきそうな新商品」をテーマに、粘土を自由に加工してつくらせながら、表現の多様性に気付かせたい。紙粘土で表現できないものは、身の回りの材料と組み合わせたり友人からアイデアをもらったりするなど情報交換をさせていく。作品鑑賞時には展示の方法も考えさせ、紙粘土だけでは表現しきれない作品の見せ方を考えたり友人と相談したりして工夫させていき、自分らしい表現ができるようにしたい。

2 実践例

(1) 題材名 ねって のぼして 色まぜて できたぞ! ぼくの新商品

(2) 題材の目標

色付き紙粘土の形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を広げる活動を通して、互いにやりとりをしながら、見つけた面白さやよさを伝え合うことができる。

(3) 題材について

本題材は、学習指導要領解説図画工作編第 1 学年及び第 2 学年の目標と内容 A 表現 (1) イ「感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくること」に関連し、「ねって のぼして 色まぜて できたぞ! ぼくの新商品」は造形感覚を養う基礎的な学習として位置付けている。ここでの基礎的な能力とは、発想や構想の能力として、紙粘土の形や色、そこからのイメージなどを基に想像を膨らませたり、自分の感覚や気持ちを大事にしながらか発想や構想を繰り返してつくりだしたり、展示方法の計画を立てるなどの能力である。また、創造的な技能は、用意した材料や粘土ベラなどの用具を用いたり、紙粘土をのぼしたり丸めたりと新たな表現技法をつくりだしたりするなど、自分の思いを具体的に表現する能力である。今回使用する紙粘土では、つくりたい色をイメージしながら粘土を練り合わせて混色をすることで表したい色調の色粘土をつくるなど、材料の持ち味を楽しみながら発想を広げさせたい。また、材料にマグネットを加えることで、さらにイメージを広げ、飾るものや使うものなど、思いついたものを自由につくらせ、発想、構想の能力を高める授業としたい。

本学級の児童は、自らの表現を楽しみながら行うなど図工への興味関心が高い。しかし、「上手につくろう」「上手につくらなくてはいけない」といった思い込みから、失敗したと落ち込み、製作が進まない児童も見られる。そこで、児童の発想や思いを尋ね、引き出しながら助言をし、一緒に試作品をつくるなどして自信をつけさせていく。失敗したと思われる色や形からも、見方を変えれば発想次第で様々な表現ができることに気付かせていきたい。

(4) 題材の評価基準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
色付き紙粘土を練り合わせ、混色や形の面白さを味わおうとしている。	練り合わせて混色した紙粘土の色調や粘土の形から発想を広げ、つくりたいものや展示の方法を考えている。	つくりたいものに合わせて色をつくったり、色の組み合わせや用具の使い方などを工夫したりして、つくりたいものをつくることができる。	つくったものを紹介し合い、互いのよさや色の表し方、展示の工夫に気付く。

(5) 指導と評価の計画 (5時間扱い)

時間	学習内容・活動	評価基準 ・【評価方法】
第1次 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・混色でつくれる色を確認しながら、思いに沿う色をつくれるようにする。 ・あえて全部混ぜずに、途中でやめると、粘土の色がマーブル模様になることに気付かせるようにする。 ・友人との情報交換から、色への感覚を働かせながら、色数を増やせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙粘土を練り合わせ、質感や色調の美しさ、面白さを味わおうと、積極的に色を混ぜたり友人と情報交換したりしている。 関【作品・観察】 ・混色から様々な色をつくりだし、色紙粘土の色調から発想を広げ、つくりたいものを考えている。 技【作品・観察】
第2次 ② 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・紙粘土が様々な形に加工できる方法を知り、色や他の材料との組み合わせを生かしてつくるようにする。 ・「新商品をつくろう」というテーマのもと、文具や食器、おもちゃなどをイメージさせて発想のきっかけとなるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙粘土の色調から発想を広げ、もってきた素材と組み合わせたりしながら、つくりたいものを考えている。 発【作品・観察】 ・色の組み合わせや用具の使い方などを工夫して、つくりたいものをつくることができる。 技【作品・観察】
第3次 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・展示方法を考え、思いが伝わるようにする。 ・表現から、紙粘土の色や他の材料との組み合わせの工夫をとらえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いのつくったものを紹介し合い、よさを味わおうとしている。 鑑【作品・ワークシート】

(6) 本時の展開

- ① 目標 ・つくりたいものに合わせて粘土を練り合わせて色をつくったり、色の組み合わせや用具の使い方などを工夫したりして、つくりたいものをつくることができる。

②準備・資料

教師：紙粘土、マグネット、粘土ベラ、接着剤、保存用ビニール袋、ふり返しカード
 児童：粘土板、粘土ベラ、組み合わせたい材料（ビーズ、モール、ストローなど）

② 開 (2時間扱い)

学習活動・内容	教師の働きかけ (○), 評価 (◎)
<p>1 前時の学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵の具の三原色や混色について学習したことなどを発表する。 ・紙粘土でも混色ができるか考えさせる。 ・油粘土との違いを確認する。 <p>2 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>○混色からどんな色ができたのかふり返りをさせ、自分が試していない混色に挑戦するよう伝える。</p> <p>○光の三原色は赤, 緑, 青。色材の三原色は, 黄色, 赤紫, 青緑であるが, ここでは赤, 青, 黄色を三原色としている。</p> <p>○紙粘土はどんな形にもなることを伝え, 過去の経験を思い出させて予想を立てさせる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>ねって のぼして 色をまぜて 自分だけの新商品を つくろう!</p> </div>	
<ul style="list-style-type: none"> ・つくる手順を確認する。 <p>3 デモンストレーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が混色の例を示す。 ・児童が混色を試す。(5分間) ・できた色を紹介する。○色+△色=□色 <ul style="list-style-type: none"> ・教師が実際に粘土の形を加工する例を見る。 <ol style="list-style-type: none"> ① うすくのぼして, カットする。 ② 棒状にしてから絡める。 ③ 丸めたり, キューブ状にしたりする。 ④ 数種類の粘土べらを使う。 ・児童が形の表現を試す。(10分間) ・できた形を紹介する。 	<p>○「オレンジ色をつくるには？」など問いかけながら一緒につくる感覚で例を示す。</p> <p>○「ビー玉ぐらいの大きさの紙粘土を用意します。」と伝え, 試作品なので紙粘土を使いすぎないように伝える。</p> <p>○混色できた紙粘土などは乾燥しないよう, すぐに保存袋に入れさせる。</p> <p>○道具の特徴を知らせ, 使い方を予想させる。</p>
<p>4 すてきな新商品をイメージしてつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がお店の店長さんになるとしたら, どんな商品をつくるか発表させる。 ・だれに, どんな時使ってもらいたいかを考えさせる。 ・紙粘土で表現できないところは, 材料を工夫して組み合わせる。 ・参考作品を見せる。 <ul style="list-style-type: none"> 例 ・プラスチックスプーンをレンズに見立てたメガネ ・薄くのぼした紙粘土のレタス ・ビーズを目に見立てたネコ など 	<p>○商品には磁石をつけるので磁力に合う大きさや重さも関係することを伝える。</p> <p>○できた色や形から, 偶然に見えてきたものを発想してつくってもよいことを伝える。うまくつけないから自分ができるものをつくる, といったことがないように発想をほめるようにする。</p> <p>○何をつくろうか悩んでいる児童には, 色や形からイメージできるものを考えさせたり, 身の回りを使うならどんなものがあるかなどを考えさせたりして, 方向性を確認していく。</p> <p>◎紙粘土の混色や加工を積極的に行い, 材料や道具を工夫しながら, 表現することができる。</p> <p style="text-align: right;">(作品・観察)</p>

- 5 学習のまとめをする
- ・製作状況を確認する。
 - ・自己評価をする。
 - ・次時の学習課題を知る。

- 6 後片付け
- ・道具の片付け方や置き場所を確認する。
 - ・片付けをしたところからグループごとに挨拶をする。

- ふり返りカードを使って、本時の学習をふり返るよう促す。
- ・次時も製作の続きであることを伝える。

- 5人×6グループ、全員で取り組むように、予め役割分担を提示し片付けさせる。片付け終わったグループから終わりにすることで、時間内にきれいに素早く片付けることができるようにする。

分担例（ローテーション）

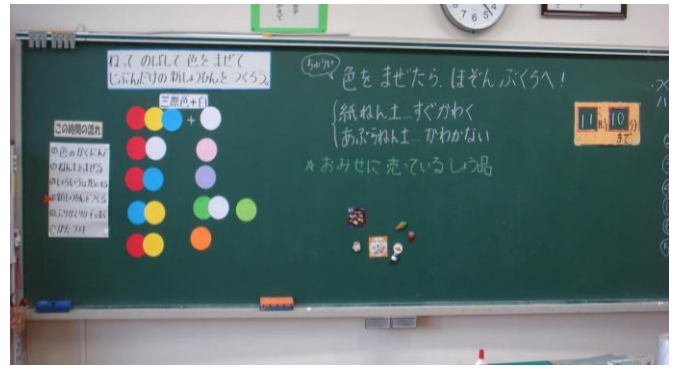
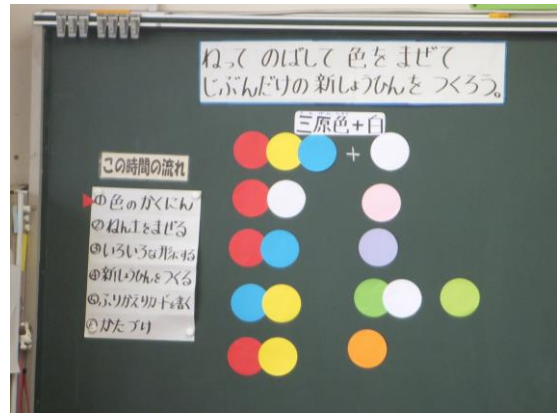
- ・ほうき 1名 ・ゴミ捨て 1名
 - ・机拭き 1名 ・机整頓 1名
 - ・ふり返りカード・紙粘土セット回収 1名
- など

④授業の様子



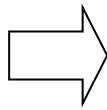
↑ 導入にて 「〇〇色をつくるに何色を混ぜますか？」

↓ 児童たちは、製作中にも黒板を確認するなど参考にしている様子が見られた。

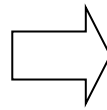




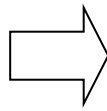
↑手のひらで伸ばす



↑粘土を練る



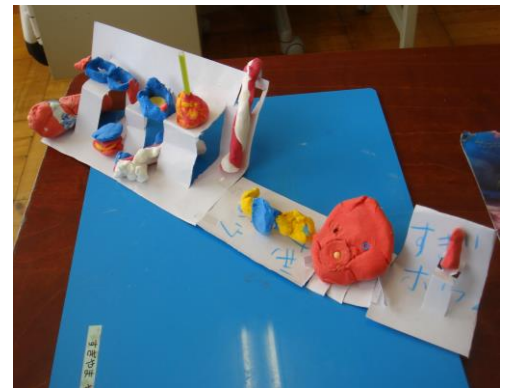
↑のべ棒で伸ばそうと試みる



完成 →



完成作品 (画用紙を切ったり折ったりと自由にアレンジしてお店に見立て、商品を並べてから展示)



2-2 商店街



3 成果と課題



- ・ 本題材の前に扱った「えのぐじま」や「いろいろいろみず」から、使う色を「赤・青・黄色・白」だけに限定させて混色のパターンを繰り返し試させた。同時にパレットや筆洗、筆の使い方、絵の具の混ぜ方を確認した。色を制限したことで、児童は色への感覚を働かせて混色を試し、白っぽい紫や赤紫、トマト色、イチゴオレンジなど、自分だけの色を複数つくることができた。

- ・ 本題材に入る前に、色についてのワークシートを作成し、学習のまとめをした。赤・青・黄それぞれの色を薄くしたいときに、①水で薄める方法②白で薄い色をつくる方法を実際に試させた。また、③「赤・青・黄色・白」だけを混ぜて色づくりをした。ワークシートには「色をうすくしたいときの方法がわかってよかった。」「きれいな色がたくさんできて楽しかった。」などの感想があった。

- ・ 今回の展示方法は、全員に四つ切りの半分サイズの画用紙を配り、立体カードのようにしてお店を自由に表現させたので、展示方法に悩むことなくそれぞれが商品に合った内装を工夫して仕上げることができた。また、自分の名前を入れた店名にすることとしたことで、児童は作品に愛着を持って取り扱う姿が見られた。

- ・ 昨年度、3年生で実施したときに、「つくりたいものをつくる」としたところ、動くおもちゃをつくるなど、組み合わせる素材が中心となり、紙粘土が脇役となる児童がいた。今年度は、自分らしく表現するにしても、製作上のルールをさらに明確に定め、導入時で

確認を徹底したところ、粘土を中心にした表現を行うことができた。

- ・ 昨年度は、組み合わせたい素材と粘土が剥がれやすく、つくりたいものが形にならず、完成する前に紙粘土が乾き、加工できなくなるケースが何人か見られた。今年度は紙粘土と油粘土の違いを確認して、使わない粘土はビニール袋に保存させることを徹底した。また、昨年度は色粘土をつくってから何をつくるか考えていた児童が多く、製作の途中で粘土が固まることもあったが、今回は「お店屋さんの新商品」のテーマから何をつくるか見通しや計画を立てて製作する児童がほとんどであったこともあり、紙粘土が固まって加工できないケースはほとんど見られなかった。

- ・ 昨年度の課題で軽量紙粘土を使用したがる、ペンスタンドや花瓶をイメージしてつくる場面も多く見られ、軽量でないほうが作品自体安定してつくりやすいと思われるものもあった。粘土をはじめとする多くの材料の適材適所を研究し、今後の課題を設定していきたい。

